

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 4-1

問1)

次の資料により、当社の（1）貸借対照表（一部）を完成させ、（2）損益計算書に記載される雑収入又は雑損失の勘定科目及び金額を示しなさい。なお、当期は×4年3月31日を決算日とする1年である。

（資料1）決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表		×4年3月31日		(単位：円)
現金預金	166,170	買掛金	61,325	
受取手形	43,500	受取利息	1,000	
電子記録債権	26,250			
売掛金	7,250			

（資料2）期末整理事項

1 現金預金の内訳は以下のとおりである。

(1) 内訳

現金（同出納帳）残高	31,420 円
当座預金（同出納帳）残高	89,750 円
定期預金残高	45,000 円
計	166,170 円

(2) 現金の実際有高を調査したところ、次のとおりであった。

- ① 通貨手許有高 25,750円
- ② 他人振出の小切手 5,700円（うち、得意先福井工業(株)振出の×4年4月3日付の小切手1,900円）
- ③ 配当金領収書 1,750円（未記帳）
- ④ 支払期日の到来した、A社の社債利札1,280円（未記帳）

(3) 当座預金勘定と銀行残高証明書残高（105,050円）との差異の原因は、次のとおりであった。

- ① 決算日に現金3,000円を預け入れたが、営業時間外のため銀行では翌日付で入金
の記帳をした。
- ② 仕入先(株)青凌工業に対して振り出した小切手1,475円が未渡しとなっていた。
- ③ 有価証券取得の支払のため振り出した小切手1,600円が未渡しとなっていた。
- ④ 仕入先(株)富山工業に対して振り出した小切手12,325円が銀行に支払呈示されてい
なかった。
- ⑤ 得意先B社から受け入れた手形4,900円の取立てが銀行ですすでに行われていたが、そ
の通知が当方に未着であった。
- ⑥ 小切手2,000円を取立依頼のため銀行に預け入れたが、決算日において銀行では未だ
取り立てていなかった。

(4) 定期預金は下記の2つである。なお、利息の計算は月割によること。

- ① 期間2年 30,000円（×3年5月1日から×5年4月30日まで、利率年1.0%、利払日
は4月と10月の各末日）
- ② 期間3年 15,000円（×1年9月1日から×4年8月31日まで、利率年1.2%、利払日
は2月と8月の各末日）

2 売上債権の期末残高に対して1.5%の貸倒引当金を設定する。

解1)

(単位：円)

(1) 貸借対照表 (一部)

貸借対照表
×4年3月31日現在

I 流動資産		I 流動負債	
現金預金		買掛金	
受取手形		()	
電子記録債権			
売掛金			
計			
貸倒引当金			
()			
II 固定資産			
()			

(2) 損益計算書に記載される雑収入又は雑損失の勘定科目及び金額

勘定科目 [] 金額 []

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 4-2

問1)

次の資料により、(1) 貸借対照表(一部)を完成するとともに、(2) 損益計算書に記載される雑収入または雑損失の科目及び金額を示しなさい。なお、当期は×3年3月31日を決算日とする一年である。

(資料1) 決算整理前残高試算表(一部)

決算整理前残高試算表			
×3年3月31日		(単位:円)	
現金預金	700,400	支払手形	800,000
受取手形	652,500	買掛金	791,300
売掛金	554,800		
販売費	199,000		

(資料2) 期末整理事項

1 現金預金の内訳は以下のとおりである。

現金(同出納帳)残高	各自推定円
当座預金(同出納帳)残高	各自推定円
定期預金残高	240,000円
計	700,400円

2 現金預金を実地調査した結果、次の事実が判明した。

(1) 現金

- ① 通貨手許有高 103,100円
- ② 自己振出の回収小切手 1,500円
- ③ 他人振出小切手 22,800円(うち得意先A社振出の×3年4月15日付の小切手8,000円)
- ④ 配当金額収書 7,000円(未記帳)
- ⑤ 期限到来後社債利札 5,200円(未記帳)

(2) 当座預金

銀行残高証明書残高315,000円との差額は次の原因による(他の資料から判明するものは除く)。

- ① 決算日に現金25,000円を預け入れたが、営業時間外であった。
- ② 仕入先に対して振り出した小切手8,600円が未渡しとなっていた。
- ③ 仕入先に対して振り出した約束手形12,500円が期日に銀行から支払われていたが、その通知が当方に未着であった。
- ④ 販売費の支払いのため振り出した小切手12,000円を21,000円と記帳していた。

(3) 定期預金

定期預金の期間は×3年1月4日から2年、利率は年6%、利払日は6月末日と12月末日である(利息の計算は月割りによること)。

3 売上債権の期末残高に対して2%の貸倒引当金を設定する。

解1)

(単位：円)

貸借対照表
×2年3月31日現在

I 流動資産		I 流動負債	
現金預金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金			
計			
貸倒引当金			
()			
II 固定資産			
()			

損益計算書

勘定科目 金額



氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 4-1

問1)

次の資料により、当社の(1)貸借対照表(一部)を完成させ、(2)損益計算書に記載される雑収入又は雑損失の勘定科目及び金額を示しなさい。なお、当期は×4年3月31日を決算日とする1年である。

(資料1) 決算整理前残高試算表(一部)

決算整理前残高試算表		×4年3月31日		(単位:円)
現金預金	166,170	買掛金	61,325	
受取手形	43,500	受取利息	1,000	
電子記録債権	26,250			
売掛金	7,250			

(資料2) 期末整理事項

1 現金預金の内訳は以下のとおりである。

(1) 内訳

現金(同出納帳)残高	31,420円
当座預金(同出納帳)残高	89,750円
定期預金残高	45,000円
計	166,170円

(2) 現金の実際有高を調査したところ、次のとおりであった。

- ① 通貨手許有高 25,750円
- ② 他人振出の小切手 5,700円(うち、得意先福井工業(株)振出の×4年4月3日付の小切手1,900円)
- ③ 配当金領収書 1,750円(未記帳)
- ④ 支払期日の到来した、A社の社債利札1,280円(未記帳)

(3) 当座預金勘定と銀行残高証明書残高(105,050円)との差異の原因は、次のとおりであった。

- ① 決算日に現金3,000円を預け入れたが、営業時間外のため銀行では翌日付で入金
の記帳をした。
- ② 仕入先(株)青凌工業に対して振り出した小切手1,475円が未渡しとなっていた。
- ③ 有価証券取得の支払のため振り出した小切手1,600円が未渡しとなっていた。
- ④ 仕入先(株)富山工業に対して振り出した小切手12,325円が銀行に支払呈示されてい
なかった。
- ⑤ 得意先B社から受け入れた手形4,900円の取立てが銀行ですすでに行われていたが、そ
の通知が当方に未着であった。
- ⑥ 小切手2,000円を取立依頼のため銀行に預け入れたが、決算日において銀行では未だ
取り立てていなかった。

(4) 定期預金は下記の2つである。なお、利息の計算は月割によること。

- ① 期間2年 30,000円(×3年5月1日から×5年4月30日まで、利率年1.0%、利払日
は4月と10月の各末日)
- ② 期間3年 15,000円(×1年9月1日から×4年8月31日まで、利率年1.2%、利払日
は2月と8月の各末日)

2 売上債権の期末残高に対して1.5%の貸倒引当金を設定する。

解1)

(単位：円)

(1) 貸借対照表 (一部)

貸借対照表
×4年3月31日現在

I 流動資産		I 流動負債		
現金預金		145,305	買掛金	62,800
受取手形	40,500		(未払金)	1,600
電子記録債権	26,250			
売掛金	7,250			
計	74,000			
貸倒引当金	△ 1,110	72,890		
(未収収益)		140		
II 固定資産				
(長期性預金)		30,000		

(2) 損益計算書に記載される雑収入又は雑損失の勘定科目及び金額

勘定科目	雑収入	金額	30
------	-----	----	----

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 4-2

問1)

次の資料により、(1) 貸借対照表 (一部) を完成するとともに、(2) 損益計算書に記載される雑収入または雑損失の科目及び金額を示しなさい。なお、当期は×3年3月31日を決算日とする一年である。

(資料1) 決算整理前残高試算表 (一部)

決算整理前残高試算表		×3年3月31日		(単位: 円)
現金預金	700,400	支払手形	800,000	
受取手形	652,500	買掛金	791,300	
売掛金	554,800			
販売費	199,000			

(資料2) 期末整理事項

1 現金預金の内訳は以下のとおりである。

現金 (同出納帳) 残高	各自推定 円
当座預金 (同出納帳) 残高	各自推定 円
定期預金残高	240,000 円
計	700,400 円

2 現金預金を実地調査した結果、次の事実が判明した。

(1) 現金

- ① 通貨手許有高 103,100円
- ② 自己振出の回収小切手 1,500円
- ③ 他人振出小切手 22,800円 (うち得意先A社振出の×3年4月15日付の小切手8,000円)
- ④ 配当金額収書 7,000円 (未記帳)
- ⑤ 期限到来後社債利札 5,200円 (未記帳)

(2) 当座預金

銀行残高証明書残高315,000円との差額は次の原因による (他の資料から判明するものは除く)。

- ① 決算日に現金25,000円を預け入れたが、営業時間外であった。
- ② 仕入先に対して振り出した小切手8,600円が未渡しとなっていた。
- ③ 仕入先に対して振り出した約束手形12,500円が期日に銀行から支払われていたが、その通知が当方に未着であった。
- ④ 販売費の支払いのため振り出した小切手12,000円を21,000円と記帳していた。

(3) 定期預金

定期預金の期間は×3年1月4日から2年、利率は年6%、利払日は6月末日と12月末日である (利息の計算は月割りによること)。

3 売上債権の期末残高に対して2%の貸倒引当金を設定する。

解1)

(単位：円)

貸借対照表
×2年3月31日現在

I 流動資産		I 流動負債		
現金預金		470,100	支払手形	787,500
受取手形	660,500		買掛金	799,900
売掛金	554,800			
計	1,215,300			
貸倒引当金	△ 24,306	1,190,994		
(未収収益)		3,600		
II 固定資産				
(長期性預金)		240,000		

損益計算書

勘定科目	金額
雑収入	400